

PROGRAM

人の望みの喜びよ	バ ッ ハ	序奏とロンド・カブリチオ	サン・サーンス
ソ ナ タ	スカルラッティ	チゴイネルワイゼン	サラサーテ
きらきら星変奏曲	モーツアルト	ヴァイオリンとピアノの為のソナタ	ドッビッシー
ソ ナ タ	ショパン		

インタビュアー 相佐 明一(浜松市教育長)

四季のコンサート 春

1984年5月1日(火) PM 6:30

浜松市民会館

主催：浜松音楽友の会

後援：浜松市教育委員会

• 難易度：★★☆☆☆、重複字数：3、ひらがな：3、片假名：0、漢字：0、英語：0。発行日：10月15日(月) PM 7:00

1974年5月漢口、1989年11月北京開學，1991年回中國深造。同年9月考取英國國立大學碩士學位。1996年春返漢口，任華中師大外語系英美文學教研室主任。同年9月考取英國牛津大學碩士學位。1998年回漢口，任華中師大外語系英美文學教研室主任。2000年考取英國牛津大學哲學碩士學位。2002年回漢口，任華中師大外語系英美文學教研室主任。2004年考取英國牛津大學哲學碩士學位。2006年回漢口，任華中師大外語系英美文學教研室主任。2008年考取英國牛津大學哲學碩士學位。2010年回漢口，任華中師大外語系英美文學教研室主任。2012年考取英國牛津大學哲學碩士學位。2014年回漢口，任華中師大外語系英美文學教研室主任。2016年考取英國牛津大學哲學碩士學位。2018年回漢口，任華中師大外語系英美文學教研室主任。2020年考取英國牛津大學哲學碩士學位。2022年回漢口，任華中師大外語系英美文學教研室主任。

3. 中国科学院植物研究所《中国植物志》编写组编著, 1980年6月第1版。
4. 中国农业科学院草原研究所《草地生态学》编写组编著, 1980年6月第1版。
5. 中国科学院植物研究所《中国植物志》编写组编著, 1980年6月第1版。
6. 中国科学院植物研究所《中国植物志》编写组编著, 1980年6月第1版。
7. 中国科学院植物研究所《中国植物志》编写组编著, 1980年6月第1版。
8. 中国科学院植物研究所《中国植物志》编写组编著, 1980年6月第1版。
9. 中国科学院植物研究所《中国植物志》编写组编著, 1980年6月第1版。

大辭典

九一ノノ



久保陽子のタベ 弘中孝

「主よ 人の望みの喜びよ」

Bach

あまりにも有名なコラール「主よ、人の望みの喜びよ」をマイラ・ヘスがピアノ編曲したものである。原曲は教会カンタータ第147番「口と心と行ないと生命を持て」 "Herz und Mund und Tat und Leben" の第6曲、第10曲(終曲)に位置する合唱コラールである。バッハの作品は、主として器楽曲と宗教的声楽曲に二分されるが、この原曲は後者に属し、バッハが作曲した555曲もの教会カンタータの中の有名な1曲である。

ソナタ L. 23

Scarlatti

ドメニコ・スカルラッティは1685年バッハ・ヘンデルと同時に、オペラの作曲家として名を残したアレッサンドロ・スカルラッティの息子としてナポリに生まれた。彼はすぐれたチェンバロ奏者であつたため多数のチェンバロ音楽を残しているが、その中でソナタは555曲数えられている。これらのソナタは、実は「Essercizi」エセルシツィと題されているように練習曲という意であり、古曲派以降のソナタとは異なる。構造は単純で2つの対照的な部分を反復する单一楽章からできているが奏法の上からも前の時代の作曲家にはなかったような新しい感覚がうかがえる。現代でも非常に新鮮である。

おもしろく聞け、独特的スタイルを持っていると言えるだろう。このソナタホ長調L.23は「行列」とも呼ばれていて、多くの人々に親しまれている愛らしい小品である。

「きらきら星」変奏曲

Mozart

童謡「サラキラ星」を主題に、12の変奏を伴なった変奏曲。単純な嚴格変奏。主題の原曲は「おかあさま、きいてちょうだい」というフランスのシャンソンでそれがそのまま題名になっている。全体を通して技法上ではやさしいが、どのような音色、響きを作り出すかということが問題になる。

ピアノソナタ第2番変ロ短調 op. 35

3楽章の「葬送行進曲」だけがソナタから切り離されて演奏されたりするため、ボビュラーになってしまったが、全楽章のソナタとしての楽曲構造上からも大変異例で興味深い作品である。列举してみると、1つは古典派のソナタの楽章配置と割り当てが異なること、もう1つはそれぞれの楽章が独自のそれもかなり色濃い性格を持つことが挙げられる。その特色は主に2.3.4楽章に顕著であり、本来なら2楽章に相当すると思える緩徐楽章を3楽章に配置し、1~2楽章を一続きと思わせることや4楽章の主題性のなさ、童謡のように過ぎ去ることからも合わせ考えると、単に先に単独で作曲された「葬送」を取り入れただけではない練熟した考え方うかがい知る。独創性が最も効果的に表われた作品である。

序奏とロンド・カプリチオ

Saint-Saëns

次の「チゴイネルワイゼン」と同じく、現在最もボビュラーな曲の一つ。これは19世紀後半から20世紀初期まで、後期ロマン派時代のフランスに生きた音楽家シャルル・カミュー・サンニーサンスの35才の時の作曲によるもの。「チゴイネルワイゼン」の作曲者であるサラサーテに捧げられ初演も同

人によって行なわれた。原曲は2管編成のオーケストラ伴奏であるが、現在ではピアノ伴奏によるものの方が聞く機会が多い。序奏と自由なロンド形式で書かれており、陽気であったり、メランコリックであったり、場面場面が変化に富んでおり旋律は至って覚えやすい。しかし後半に入ってからのパッセージはヴィルトオーゾ的技巧を要する。

チゴイネル・ワイゼン

Sarasate

作曲者サラサーテは、スペイン生れの偉大なバイオリニストであった。そのため同時代の19世紀に生きた作曲家たちは(前述のサンニーサンスもそうであったが)彼に弾いてもらうことを想定して数多くの曲を書いた。この曲は、サラサーテ自ら演奏することを目的として作曲されたもので全体は3つの部分からできており、特に第3部のヴァイオリンパートは大変むずかしい。

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ

Delsussy

クロード=アン・ドビュッシーは、1862年8月22日フランスで生まれる。1875年後に生まれたラベルと共に、印象派の音楽家とされているが現代音楽の創始者といつても過言ではない。

彼らは印象派の美術家が唱えた「物体には固有の色はない」というテーゼを音楽で実行し、光によって微妙に変化して見える色を音で表わそうとした。そのため感覚と個性を重んじ、幾多の制約から解放されることを主張した。創作面の上では、機能和声の崩壊から新しい和声法を考案し、既成概念の否定から形式主義を批難した。

この「バイオリンとピアノのためのソナタ」は、ドビュッシー最後の作品である。従って最も完成された印象主義の作風で書かれており、表現手段は意識的に簡略化されているが、気まぐれで自由な感覚と深い詩情にたたえられている。

(曲目解説 望月由美子)